



花の木農場の目指す地域共生社会
～ノウフクで居場所と出番をつくる～

農と福祉がつながって、日本を元気に！

ノウ フク

PROJECT

自己紹介

- ・ 天野雄一郎（35）
- ・ 福岡県出身。
- ・ 大学は経済学部。経済学嫌いのバックパッカーでした。
- ・ 卒業後は（株）JTBに入社。
- ・ 10年程、教育旅行・法人旅行の営業や添乗業務に携わる。
- ・ 田舎暮らしに憧れ2015年に家族で鹿児島県錦江町に移住。
- ・ 2015年、白鳩会に入職。総務職。

※主に広報、視察対応、利用者さん支援、施設・就労会計の請求業務全般を担当してきました。

- ・ 2018年、ASIAGAPの指導員資格を取得。花の木農場で働くスタッフ、障がい者の方々と共にGAPの取組みを始める。
- ・ 2018年、一般社団法人日本農福連携協会の事務局を拝命。
- ・ 2019年、ASIAGAP認証取得（社会福祉法人白鳩会花の木農場）
- ・ 現在は上記の仕事に加え、ソーシャルファームジャパンサミット鹿児島大会の事務局、触法障がい者の処遇に邁進中。

白鳩会(花の木農場)の47年のあゆみ

昭和47年

社会福祉法人 白鳩会 設立認可

昭和48年

おおすみの園 開所

昭和53年

農事組合法人 根占生産組合

昭和56年

授産施設セルプおおすみ(現花の木ファーム)開所

【 (社福)白鳩会の事業所 】



鹿児島市

鴨池港



桜島

垂水市

鴨池垂水フェリー

- 垂水フェリーターミナル
- 柊原小

- オレンジパーク串良



南九州市

- 鹿屋体育大
- 鹿屋中

ニシムタ

- 鹿屋女子高
- 鹿屋航空基
- 霧島ヶ丘公園



鹿屋市



医師会立病院

花の木農場

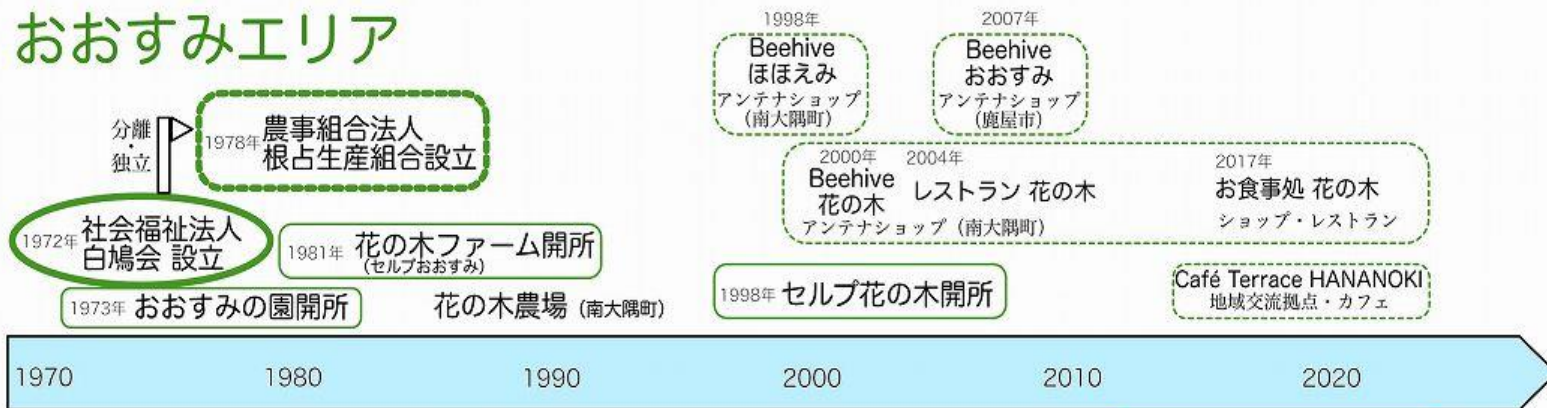


- 南大隅役場



社会法人白鳩会の農業関連部門の拡大経緯

おおすみエリア



かごしまエリア 鹿児島市内



(社福) 白鳩会
おおすみエリア
 花の木農場 (南大隅町)

おおすみの園
花の木ファーム
 障害者 A型8人, B型46.5人
 ・お茶 (生産・加工・販売)
 ・トマト、イチゴ、花
 ・水耕 サラダホウレンソウ等
 ・養豚 (繁殖)

第2花の木ファーム 加工
 障害者 B型34人, 移行1.6人
 ・お茶、トマト、イチゴ、花
 ・施設の美化
 ・解体、精肉
 ・ハム・ソーセージ
 ・惣菜
 ・パン製造

子豚・肉の
 売買契約

農作業の
 請負契約

(農) 根占生産組合 障害者 雇用 6人

分離・独立
 ・お茶生産
 ・水稲
 ・ニンニク
 ・養豚 (肥育)
 ・牛 (繁殖)
 ・水耕
 サラダホウレンソウ
 ルッコラ

お食事処 花の木
 ショップ・レストラン

Café Terrace HANANOKI
 地域交流拠点・カフェ

Beehive おおすみ
 アンテナショップ
 (鹿屋市)

Beehive ほほえみ
 アンテナショップ
 (南大隅町)

(社福) 白鳩会
かごしまエリア
 鹿児島市内

花の木カノン

・石けん製造・販売

花の木大豆工房

障害者 B型11.5人

・豆腐
 ・惣菜
 ・清涼飲料水
 ・ソース
 ・菓子

加工・製造・販売

・花の木ファーム
 ブランド

・委託加工

花の木冷菓堂

障害者 B型13.4人

・ジェラード
 ・アイスクャンディー
 ・かき氷

アンテナショップ

ジェラート販売
 (商業施設
 ドルフィンポート)

移動販売
 (保育園・学校行事等)

HANANOKI Farmlab
 カフェ
 (中心市街地)

tavola HANANOKI
 アンテナショップ・カフェ
 (鴨池ニュータウン)

物流・販売

経 営 理 念

きょう かん きょう いく

「共汗共育」

働きを大切に作る心と より働ける身体と
働きを作り出す賢さを育て上げて
一人一人を誇りの高い存在とする楽園としたい

2019年5月23日 ASIAGAP認証取得！！

茶生産で国際認証取得 南大隅・花の木農場 **農福連携に評価**

(2019/07/15 20:00)

社会福祉法人白鳩会が運営し、知的障害者が働く「花の木農場」（南大隅町）の茶が、国際水準の農業生産工程管理「ASIAGAP（アジアギャップ）」の認証を取得した。食品の安全性に加え、環境や人権に配慮した取り組みが認められた。日本GAP協会（東京）は「農業と福祉の連携の一環として注目すべき事例」と評価している。

協会によると、国内のGAP認証のうち、ASIAGAPは最高レベル。茶の部門は「農場運営」「食品安全」「環境保全」「労働安全」「人権・福祉」の5分野で163項目の基準をクリアする必要がある。



茶畑で認証を喜ぶ花の木農場のメンバーら＝南大隅町根占川北

共汗共育

利用者と職員が共に汗を流し、共に育つ。障がいがある無しにかかわらず、社会のすべての人が、命を育みながらお互いを理解し、成長していく。白鳩会は、そんな豊かな大地でありたいと願っています。私たちの育てる農産物で、お客様や農園で働く仲間や多くのみなさんの心身の健康を応援し、笑顔を創ります。

法令を遵守して安全・安心な農作物を提供できるように、農場管理の仕組みを継続的に改善いたします。

2018.07.01 社会福祉法人白鳩会理事長 中村隆重

花の木農場 計 45.1 ha

花の木農場 I / 27.6 ha

お茶・にんにく・梅・椎茸・たまねぎ・サラダほうれん草・
ルッコラ・オクラ・さつまいも・じゃがいも・スナップエンドウ・
ほうれん草・水菜・小松菜・パン・惣菜加工品・ウィンナーソーセージ・
ぎょうざ・コロケ・ブルーベリー・花卉・生産牛・育成牛・バラ



花の木農場 II

面積 6.3 ha

お茶・有機茶・ミニトマト・いちご



花の木農場 III / 11.2 ha

養豚事業



















REAL SPIRIT
36TH
OF SPORTS







花の木農場
ニラ餃子
しお味

HANANOKI FARM
KAGOSHIMA

花の木農場 元氣なごはん
花の木ぶたどん

花の木ぶたどん

花の木ぶたどん

HANANOKI FARM
MADE FROM KYUSHU

HANANOKI FARM
KAGOSHIMA

HANANOKI FARM
MADE FROM KAGOSHIMA

HANANOKI FARM
MADE FROM KAGOSHIMA

HANANOKI FARM
MADE FROM KAGOSHIMA

HANANOKI FARM
MADE FROM KAGOSHIMA

HANANOKI FARM
MADE FROM KAGOSHIMA

HANANOKI FARM
MADE FROM KAGOSHIMA













農業法人 株式会社 橋本生産株式会社 社会福祉法人 白鷺会
花の木農場 II





花の木
農場

LUSSER



Sasa

ルートシエーパー

花の木





花の木農場の就労概況

(花の木ファーム) 平成30年度

作業班 名称	従事者数		作業内容
	職員	利用者	
養豚班	2	16	交配・分娩補助,給餌,堆肥取り,豚舎清掃,出荷
茶園班	2	12	定植,水遣り,薬剤散布,施肥,除草,摘採
茶製造班	2	2	製造補助,工場清掃,除草
茶加工班	1	2	茶箱詰め,真空パック,しおり入れ,除草
水耕班	3	4	収穫,出荷準備,双葉取り,ハウス清掃
にんにく班	5	7	種消毒,種まき,収穫,選別,除草
トマト班	2	3	ハウス設置,芽掛け・水やり補助,除草
花班	3	3	施肥,水遣り,堆肥づくり,腐葉土づくり

花の木農場の就労概況

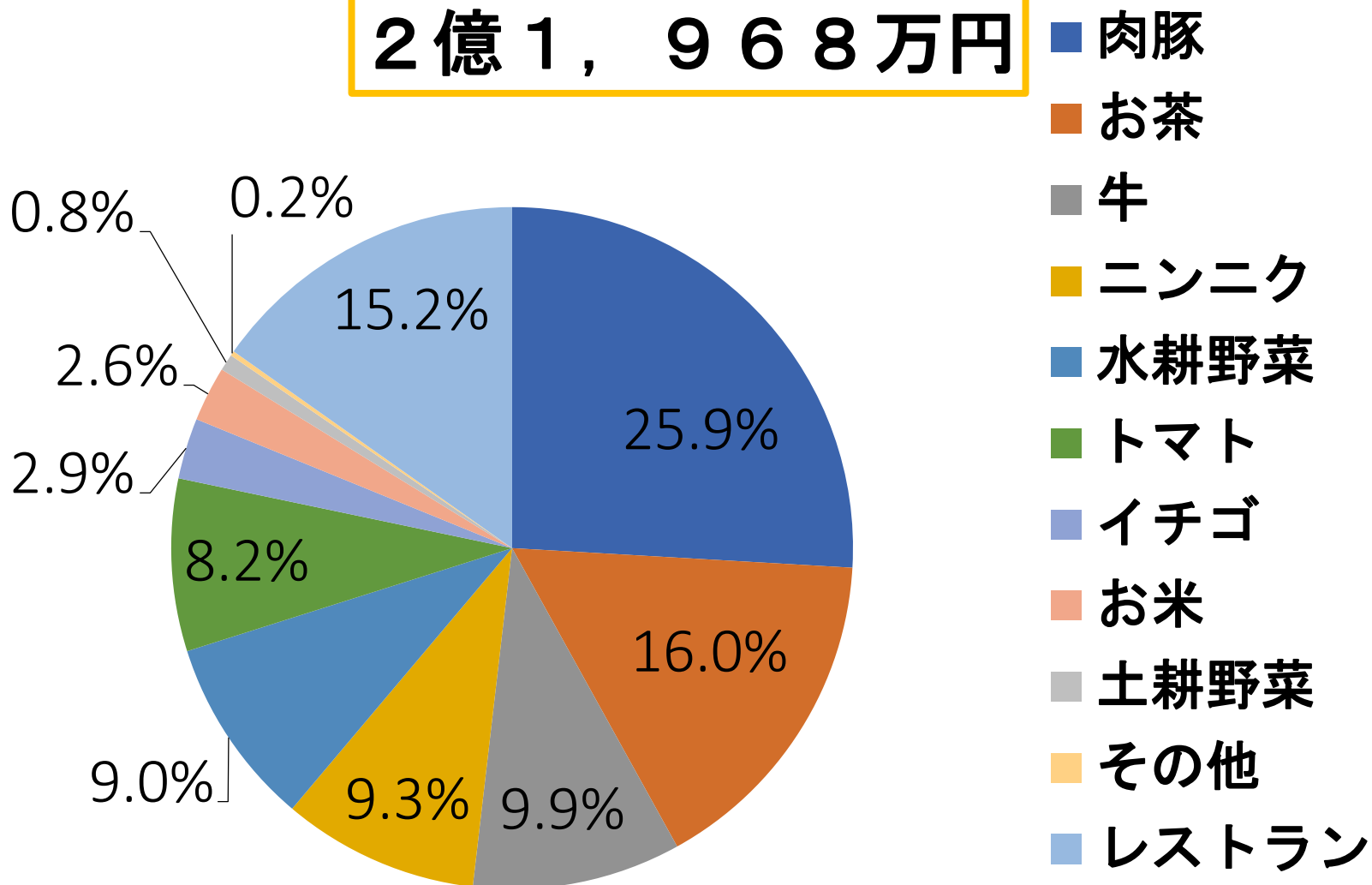
(第2花の木ファーム 旧セルフ花の木) 平成30年度

作業班 名称	従事者数		作業内容
	職員	利用者	
ハム・ソーセージ班	1	4	浸け込み肉整形, ソーセージづくり, 殺菌, 包装, 清掃, 出荷準備
精肉班	1	2	パック詰め, 清掃, 出荷準備
解体班	1	4	脱骨, 整形作業, 清掃
惣菜班	2	5	ハンバーグ・コロッケ・餃子づくり, パック詰め, 野菜きり, 計量
パン班	2	5	種の整形, 包装作業, 計量
農耕班	2	1 2	(花の木ファームの土耕作業内容と同じ)
美化班	2	8	施設内外の清掃

品目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
茶	摘採（一番茶）	肥料散布	摘採（二番茶）	摘採（三番茶）	肥料散布			堆肥散布	カヤ切り	防霜準備	防霜	
	被覆（パロン）	整枝			整枝					肥料散布		
		薬剤散布										薬剤散布
	除草・草払い											
茶工場	茶加工（一番）	工場内外掃除	茶加工（二番）	茶加工（三番）	工場掃除	製茶（火入れ）						
稲作（早期）	田植え	水管理			収穫						堆肥・肥料散布	
		除草・草払い			乾燥・貯蔵						耕運	
		薬剤散布										
		鳥獣対策										
稲作（普通）		堆肥・耕運	田植え	水管理			収穫					
		草払い		除草・草払い			乾燥・貯蔵					
				薬剤散布・追肥								
				鳥獣対策								
しいたけ							収穫					
								原木切倒し		原木カット		菌打ち
牛		堆肥散布			牧草梱包		堆肥散布					牧草梱包
		牧草播種					牧草播種					
						エサやり・牛舎清掃・草刈り・分娩補助・セリ（手入れ）						

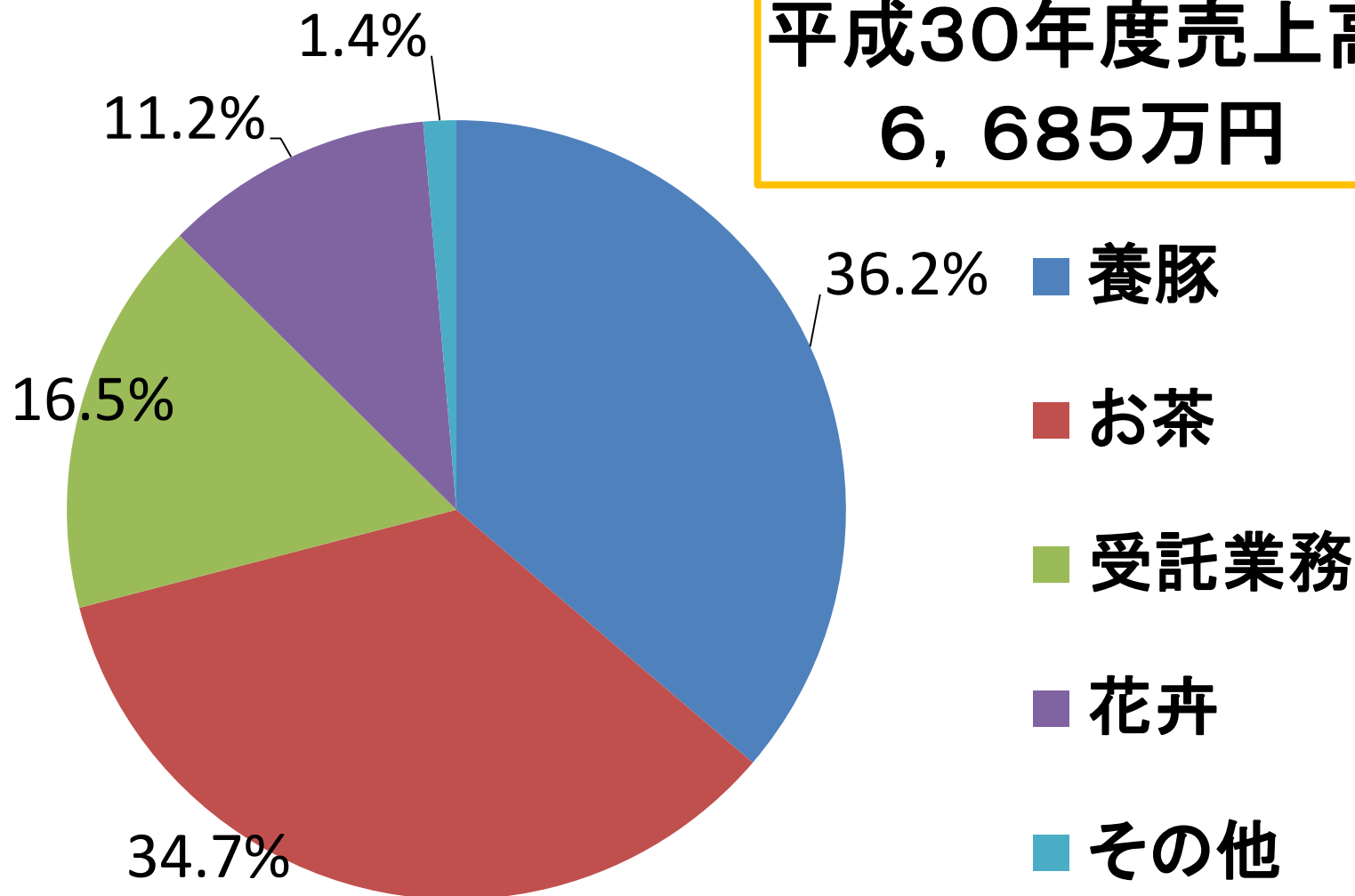
(農) 根占生産組合の農畜産物

平成30年度売上額
2億1,968万円



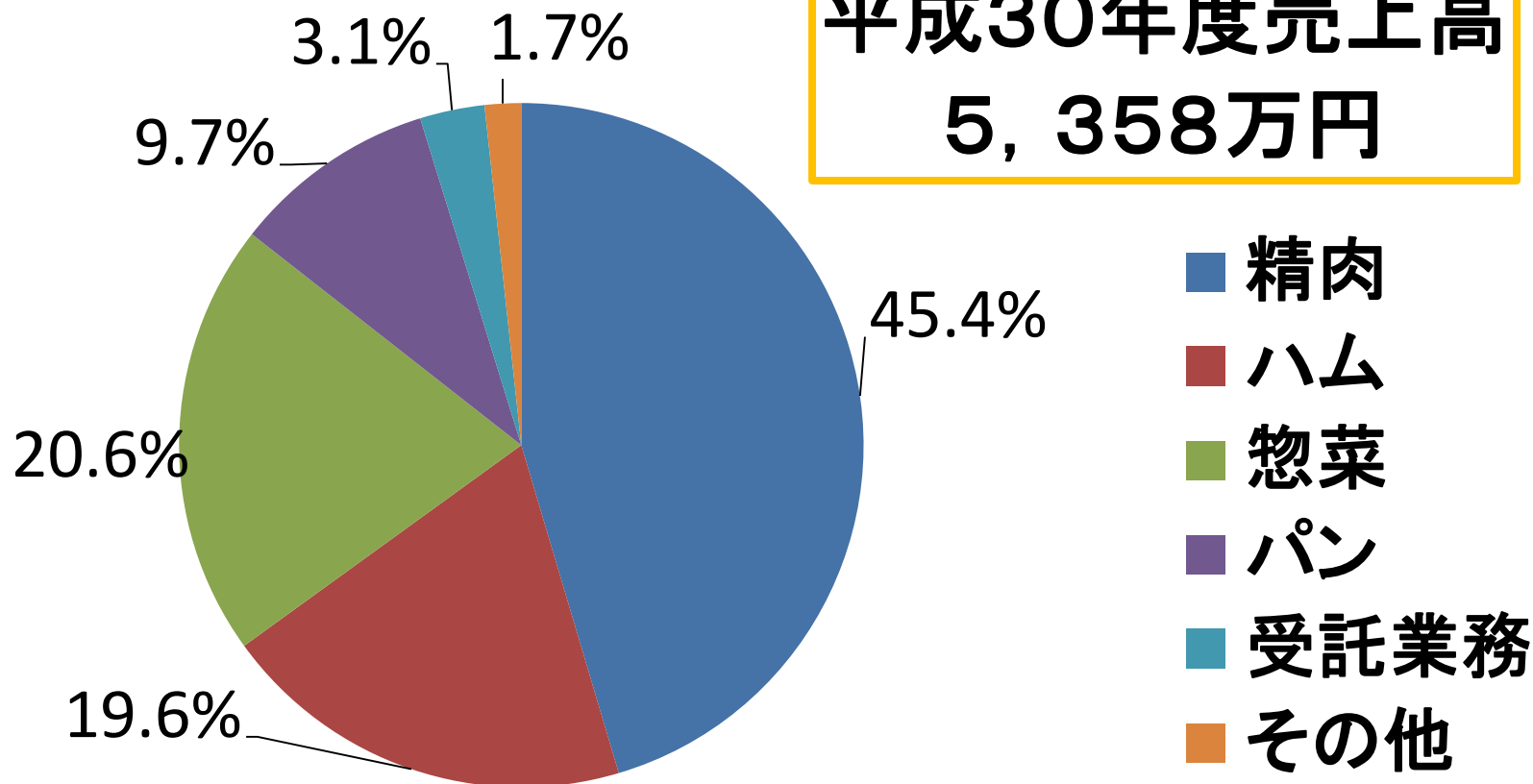
花の木ファームの農畜産物 (社福) 白鳩会

平成30年度売上高
6,685万円



セルプ花の木の製造・加工 (社福) 白鳩会

平成30年度売上高
5,358万円



かごしまエリアの生産物 (社福) 白鳩会

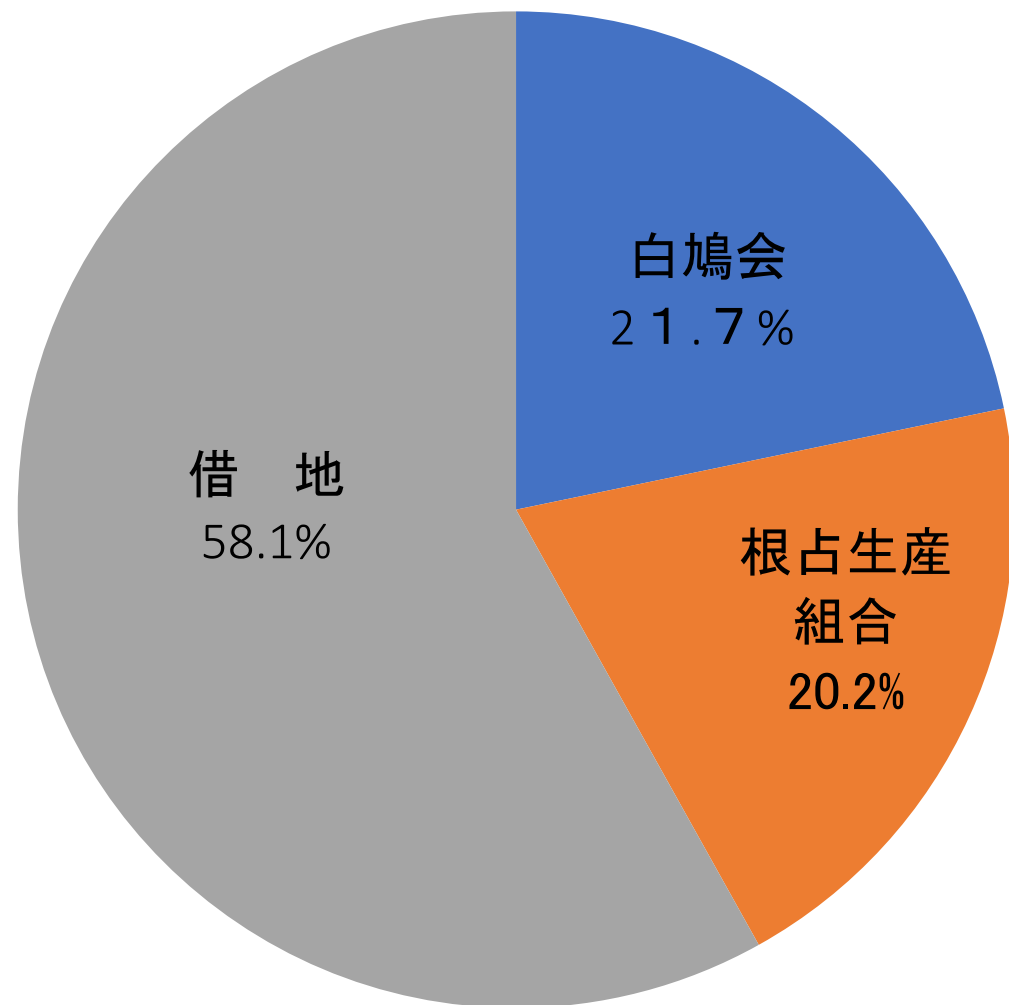
平成30年度売上高
4,905万円

花の木農場

耕作地の所有状況

- (社福)白鳩会／9.8ha
- (農)根占生産組合／9.1ha
- 借地／26.2ha

合計45.1ha

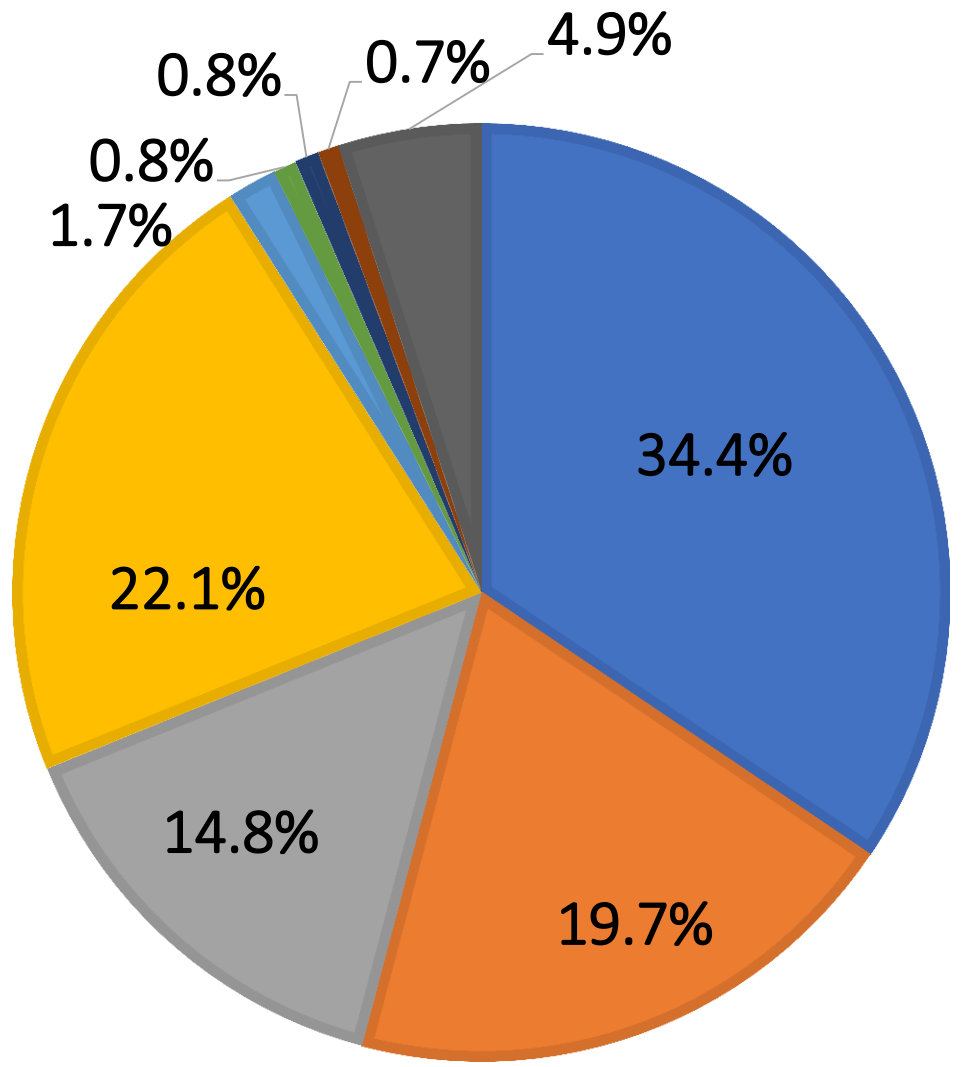


花の木農場

作付状況 (単位千㎡)
2019年9月17日現在

- 茶園 / 70.0
- 水田 / 40.0
- 飼料畑 / 40.0
- ニンニク畑 / 55.0
- トマト畑 / 3.5
- イチゴ畑 / 1.6
- ナッパーランド / 1.7
- (花の苗) 温室 / 1.5
- その他土耕野菜 / 10.0
- 計 / 223.3

- 茶園
- 飼料畑
- トマト畑
- ナッパーランド
- 水田
- ニンニク畑
- イチゴ畑
- (花の苗) 温室



触法障がい者の受入れ

触法障害者受入れの現状

現在

■矯正施設出所者及び少年院出院者は7名

そのうち

■累犯障がい者は4名

■社会復帰促進センター（播磨）で職業訓練を受けた方が1名

■更生保護施設草牟田寮・みやざき青雲を経た方が6名

■他施設処遇困難者・虞犯少年など15名

※過去の受入や退所者を含めると、30名以上の受入れ実績。

※7名のうち1名は農業法人にて雇用。3名は就労継続支援A型を、その他3名はB型を利用中。

※法務省福岡矯正管区と連携し、11月、少年院からの累犯障がい者受入れの準備を進めている。

「自分の可能性を信じて」

僕は生まれてすぐに両親を亡くし、祖父母に育てられました。幼いころからいたずらを繰り返して、祖父母にはたくさん迷惑をかけてきました。祖父が亡くなってからは、特に生活が乱れ、悪友とつるんでは深夜徘徊・喫煙・万引き・窃盗・自動販売機荒らしなどで何度も先生や警察に補導されました。勉強には身が入らず、怒られる度にしっかり生活しようと思うものの、人に流され楽しいことばかりに夢中になっていた学生時代でした。

宮崎の定時制高校入学しましたが、遊びに夢中になり、勉強についていけず中退しました。仕事は長続きせず、たくさんの季節労働を転々としました。生活に困って悪いことをする人はたくさんいますが、僕はただただ遊びたくて、そのためのお金が欲しくて、悪いことを続けました。

成人してからも、反社会的行動を続け、20歳の時、飲酒運転のため免許停止をなりました。その期間に車に乗り事故を起こした挙げ句逃げたため、警察に逮捕されました。ひったくりなどで執行猶予期間中だったため、刑務所に入りました。刑務所での生活は本当に辛くて、二度と戻りたくないと思いました。刑務所では厳しい決まりごとの中でずっと監視されました。出所後、更生保護法人青雲寮から仕事に就きましたが、また長続きせず、他の仕事も見つからずに就職を諦め、朝からアルコールに明け暮れました。深夜遊ぶことも増え、お金のない僕は居酒屋に侵入し再逮捕されました。

その後も執行猶予付きで釈放されたのに、自動販売機荒らしでまた逮捕。3回目の出所後に再度青雲寮を利用し、福祉の力を借りて頼ることになりました。その前にも福祉サービスを利用したことはありました。

僕はてんかん発作を持っていますが、福祉の手助けはいらないと思っていて、最初は本当に嫌でした。でも祖母にこれ以上迷惑をかけてはいけない気持ちと周りの勧めもあって、入所を決意しました。

セルフおおすみに入所してからは養豚や花、土方工事やトマトの作業を経験しました。頑張れば理事長や職員がほめてくれるので、やる気が出てきます。それでも人に流されて、施設内で何度も悪いことをしました。

人からたばこや小遣いを盗ったり、自動販売機や公衆電話も荒らしました。自分の中でモヤモヤしたり処理できないことを、相談もせず1人で迷って、気を紛らわすために、してはいけないことを繰り返しました。

理事長や職員はその度に真剣に叱ってくれて、申し訳ない気持ちとこんなことを繰り返せば宮崎の祖母のところにも帰宅できなくなると思いました。それでもしてしまうのです。

一度、帰宅期間中に親戚にいろいろと言われ、嫌になって10日間ほど逃げました。野宿をしたり、漫画喫茶に隠れて過去の自分に戻っていきそうな恐怖と誰にも縛られたくない気持ちがありました。

発見されたとき、地元の支援センターの方やセルフおおすみの職員もずっと捜索していたと聞きました。こんな僕にも帰る場所があるんだと感じました。

あるとき理事長が作業を頑張っていた僕にご褒美だと言って居酒屋に連れて行ってもらったことがあります。理事長の考えや職員の気持ちを聞いて、自分の目標や夢の話もしました。頑張れば報われるのは職員も僕も一緒なんだと思います。

農作業に取り組み、4万円の工賃をもらっていて、貯金も貯まってきました。祖母の頼みで実家のお風呂の改装費を出してあげられたときに、やっと孫らしいことができた嬉しくなり、給料をもらうことの充実感を初めて感じました。

今、僕が考えることは、祖母のことです。今まで祖母に対して暴力をしたり、脅したり、裏切り続けてきたのに、92歳になった今でも僕が帰宅すると喜んでくれます。最近では肺炎を起こして入院していますが、見舞いに行けば喜んでくれます。将来はもう一度祖母と暮らして親孝行がしたいです。これからも僕がどのように成長していくのかをたくさんの人に見てもらって自分と同じような境遇の人の励みになれば嬉しいです。

僕はまだまだ可能性がたくさんあります。いろんな人の協力は必要ですが、裏切り続けた人生から抜け出して、みんなの期待に応える男になっていきたいです。

触法障がい者の受入れ

利用者と接して感じること

【農業で働く意味や良さ】

- ・ これまで失敗もあったが、衣食住+働く場所の「安定」が概ね触法障がい者の方々の「安定」に繋がる。
- ・ 農業を通して、自然にふれあうことで、心に大きなゆとりが生まれた。
- ・ 農業と矯正教育は相性が良い。
- ・ 農業は居場所と出番がつくりやすい。
- ・ 農業は、取り組みに対する成果がわかりやすい。（共汗共育）
- ・ 農業に障がいの有無はあまり関係ない。
- ・ 当然、白鳩会1法人レベルではこの課題は解決できない。農業が合わない方も、田舎が合わない方もいる。だからこそ、特色のある様々な法人が肩を組んで取組む必要がある。

特別トークイベント

地域で共に暮らすために

日時：2018年10月27日(土) 11時開始
 場所：花の木農場 多目的ホール「緑風」
 参加費：無料(定員予定：50名)

講師：村木厚子氏
(熊本県立大学准教授)
 (元熊本県警察署長)

1955年高知県生まれ、1978年高松大学卒業、同大学教員(熊本県立大学)入社、女性部長、副知事政策室長に携わり、2008年福岡県庁へ異動。福岡県庁長、2012年共済・福岡地区長を歴任、2012年7月から2015年10月まで厚生労働省勤務。
 現在は、津田塾大学非常勤教授、伊賀家酒造(株)取締役専任など(兼務)日本能率機構の専任委員(1)特別顧問(2)第三者評価(3)付録MP(社)に就任しているなど各地の活躍が主。

参加費無料
10/27(土)
 開始時間調整中

同時開催
ふれあいバザー in おおすみ
 楽しいステージ
 美味しい食べ物

特別トークイベントプログラム

- 11時00分～12時00分：第1部 村木厚子氏ご講演
- 12時00分～12時45分：休憩(お茶は各自でお持ちします)
- 12時45分～14時15分：第2部 村木厚子氏を囲んで座談会
- 14時30分～15時00分：運営報告会・サイン会

※ 第1部、2部共に、参加できる方の予約を優先いたします。

お申込み先 参加希望の方は、FAXにてお名前、住所、連絡先を添えてお申込みください。

花の木ファーム (担当：天野・池野)
FAX：0994-27-4744
お申込み締切：9月28日(金) 申込み多数の場合は抽選となります。

法務省・福岡矯正管区との連携



村木厚子氏特別トークイベント 触法障がい者に対する地域啓発イベント

「農福連携等推進会議」

構成員：
議長 内閣官房長官
副議長 厚生労働大臣
農林水産大臣
構成員 内閣官房副長官(衆)
内閣官房副長官(参)
内閣官房副長官(事務)
内閣官房副長官補(内政担当)
内閣官房内閣審議官(内閣官房副長官補付)
法務省矯正局長
法務省保護局長
文部科学省初等中等教育局長
厚生労働省職業安定局長
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
農林水産省大臣官房総括審議官
農林水産省農村振興局長



有識者(五十音順)：

且田 久美(カツダ クミ) 株式会社九神ファームゆむる 取締役(エピコダックス株式会社 障がい者雇用責任者)
小池 邦子(コイケ クニコ) 社会福祉法人花工房福祉会 理事長
佐藤 康博(サトウ ヤスヒロ) 日本経済団体連合会 農業活性化委員長
城島 茂(ジョウシマシゲル) TOKIO
新免 修(シンメン オサム) 山城就労支援事業所さんさん山城 施設長
鈴木 緑(スズキ ミドリ) 京丸園株式会社 総務取締役
鈴木 英敬(スズキ エイケイ) 農福連携全国都道府県ネットワーク 会長
中村 邦子(ナカム ラクニコ) 社会福祉法人白鳩会 常務理事
中冢 徹(ナカヤト オル) 全国農業協同組合中央会 会長
皆川 芳嗣(ミナガワ ヨシツグ) 一般社団法人日本農福連携協会 会長
村木 厚子(ムラキ アツコ) 津田塾大学 客員教授

I 農福連携等の推進に向けて

農福連携は、農業と福祉が連携し、障害者の農業分野での活躍を通じて、農業経営の発展とともに、障害者の自信や生きがいを創出し、社会参画を実現する取組。年々高齢化している農業現場での貴重な働き手となることや、障害者の生活の質の向上等が期待

農福連携は、様々な目的の下で取組が展開されており、これらが多様な効果を発揮されることが求められるところ

持続的に実施されるには、農福連携に取り組む農業経営が経済活動として発展していくことが重要で、個々の取組が地域の農業、日本の農業・国土を支える力になることを期待

農福連携を全国的に広く展開し、視野を広げていくには「知られていない」「踏み出しにくい」「広がっていかない」といった課題に対し、官民挙げて取組を推進していく必要

また、ユニバーサルな取組として、高齢者、生活困窮者等の就労・社会参画支援や犯罪・非行をした者の立ち直り支援等、様々な分野にウイングを広げ、地域共生社会の実現を図ることが重要（SDGsにも通じるもの）

農福連携等の推進については、引き続き、関係省庁等による連携を強化

II 農福連携を推進するためのアクション

目標：農福連携等に取り組む主体を新たに3,000創出*

1 認知度の向上

- ・定量的なデータを収集・解析し、農福連携のメリットを客観的に提示
- ・優良事例をとりまとめ、各地の様々な取組内容を分かりやすく情報発信
- ・農福連携で生産された商品の消費者向けキャンペーン等のPR活動
- ・農福連携マルシェなど東京オリンピック・パラリンピック等に合わせた戦略的プロモーションの実施

2 取組の促進

○ 農福連携に取り組む機会の拡大

- ・ワンストップで相談できる窓口体制の整備 ・スタートアップマニュアルの作成
- ・試験的に農作業委託等を短期間行う「お試しノワーク」の仕組みの構築
- ・特別支援学校における農業実習の充実
- ・農業分野における公的職業訓練の推進

○ ニーズをつなぐマッチングの仕組み等の構築

- ・農業経営体と障害者就労施設等のニーズをマッチングする仕組み等の構築
- ・コーディネーターの育成・普及
- ・ハローワーク等関係者における連携強化を通じた、農業分野での障害者雇用の推進

○ 障害者が働きやすい環境の整備と専門人材の育成

- ・農業法人等への障害者の就職・研修等の推進と、障害者を新たに雇用して行う実践的な研修の推進
- ・障害者の作業をサポートする機械器具、スマート農業の技術等の活用
- ・全国共通の枠組みとして農業版ジョブコーチの仕組みの構築
- ・農林水産研修所等による農業版ジョブコーチ等の育成の推進
- ・農業大学校や農業高校等において農福連携を学ぶ取組の推進
- ・障害者就労施設等における工賃・賃金向上の支援の強化

○ 農福連携に取り組む経営の発展

- ・農福連携を行う農業経営体等の収益力強化等の経営発展を目指す取組の推進
- ・農福連携の特色を生かした6次産業化の推進 ・障害者就労施設等への経営指導
- ・農福連携でのGAPの実施の推進

3 取組の輪の拡大

- ・各界関係者が参加するコンソーシアムの設置、優良事例の表彰・横展開
- ・障害者優先調達推進法の推進とともに、関係団体等による農福連携の横展開等の推進への期待

III 農福連携の広がりの推進

「農」と「福」のそれぞれの広がりを推進し、農福連携等を地域づくりのキーワードに据え、地域共生社会の実現へ

1 「農」の広がりへの支援

林業及び水産業において、特殊な環境での作業もあることにも留意しつつ、障害特性等に応じた、マッチング、研修の促進、経営発展を目指す取組の推進、林・水産業等向け障害者就労のEPA事業の創設

2 「福」の広がりへの支援

高齢者、生活困窮者、ひきこもりの状態にある者等の働きづらさや生きづらさを感じている者の就労・社会参画の機会の確保や、犯罪や非行をした者の立ち直りに向けた取組の推進

ノウフク

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



ノウフクフォーラム 2019

農福連携×SDGs

[地域再生と持続可能な共生社会の構築]

持続可能な共生社会に関心を抱く多様な分野の方に向けて、「農業」×「福祉」が創る価値を共に考え、ノウフクプロジェクトに参加するきっかけの場として、本フォーラムを開催します。「農福連携×SDGs」の切り口から、多分野のキーマンや実践者を招き、基調講演、プレゼンテーション、トークセッションを行います。共生社会を具現化する「農福連携」の今を、是非実感ください。



日本農福連携協会 副会長
村木 厚子



環境省総合環境政策課長
中井 徳太郎 氏

日時 2019年9月26日(木) 10:00~17:00 (9:30開場) 懇親会 18:00~

会場 大和ハウス東京本社ビル 〒102-8112 東京都千代田区墨田三丁目13番1号 (JR水戸線東横口2分徒歩2分/JR有明線東横口2分徒歩7分)

定員 300名(先着順) 参加費 ●一般/5,000円 ●学生、障害者手帳をお持ちの方/2,000円 ●日本農福連携協会会員/2,000円 ◎賛助会員(年会費 関係機関あり)/3,000円 ◎特別参加の方、別途5,000円

主催/一般社団法人日本農福連携協会 共催/大和ハウス工業株式会社

ご挨拶

日本農福連携協会は、農福連携に関わる団体をつなぐ民間のプラットフォームとして、2018年11月に一般社団法人としてスタートしました。今回のフォーラムは法人化して初めて開催するもので、情報発信に加え幅広い参加者の間で活発な情報・意見の交換を行っていただくことを目指しています。ノウフクはすべての人々が社会の中で居場所を得て、やりがい、いきがいを持つことを通じて持続可能な共生社会を創り上げる可能性を秘めた考え方で、今日のフォーラムを契機として「ノウフクの輪」がさらに拡がり、加わった人々が新たな行動に踏み出していただくことを期待いたします。



日本農福連携協会会長 長谷川 芳嗣

プログラム

情報公開(申込通り)がいたします。会場内にも同様のトイレがございます。

午前(10:00~12:00)

開会の挨拶 日本農福連携協会 会長 長谷川 芳嗣

基調講演 I 日本農福連携協会 副会長 村木 厚子 「共生社会を創ろう(仮題)」

基調講演 II 環境省総合環境政策課長 中井 徳太郎 氏 「地域連携共生の創生—日本発の脱炭素化、SDGs構想—」

午後(13:00~17:00)

○日本農福連携協会からのお知らせ(JAS規格、活動報告等)

○プレゼン&トークセッション「ノウフクが生ま出すつながる世界」

▶オープニングトーク:ランバンプス(吉本興業)×農福連携協会

▶プレゼンテーション

大和ハウス/企業だからできること。「植物工場による新たな農福連携のかたち」

西陣美酒/全国連携! 国内初のノウフク連携地ビールプロジェクト

長野セルブ/JA松本ハイランド×福祉の地域内地産物マッチング!

青森果樹園/枝集めから始まった、できるを広げて生まれた価値

白崎会/「共汗・共育」の精神で歴史を重ねた福祉事業所のノウフク

▶トークセッション:ノウフクでつながろう!



懇親会(18:00~)「農福連携商品を味わう懇親会」会場:大和ハウス本社内 ※ご希望の方のみ

お申込み

お申し込みは、特設サイトからチケットをご購入ください。

〈ノウフクフォーラム 特設サイト〉

URL: <https://peatix.com/event/738462>

お支払いは、カード決済、コンビニ、ATM払いのどちらかをお選びいただけます。



※チケット購入後のキャンセルは、連絡は受けておりませんので予めご了承ください。

※買った金額でご購入された場合、現金はできませんので、発券の際には十分にご注意ください。

(自費不返分のチケットを購入された方は、退席、不返分を御願いいたします)

※特設サイトからのチケット購入についてのお問い合わせは、協会事務局までご連絡ください。(03-5295-0070)

ノウフク

日本農福連携協会

全国の農福連携に関わる団体を包括するプラットフォーム。農業・福祉分野のみならず企業・団体・個人・各都道府県など多様な分野から構成されており、ネットワークや知見や情報を活用し、農福連携の情報発信や啓発、農福連携全体のブランディング、農福連携商品の販売促進などに取り組み、全国規模で農福連携を推進している

活動内容

1. 農福連携に取り組んでいる事業所（事業者）の認定
2. 農福連携によって生産された農産物等のブランド化
3. 農福連携によって生産された農産物等の販売促進及び販路開拓
4. 農福連携に関する情報、資料の収集・提供、会報の作成及び発行
5. 農福連携の普及啓発に向けたセミナー、フォーラム等の開催
6. 農福連携の推進に必要な施策・制度等に関する勉強会の開催
7. 農福連携に関心を抱く様々な分野の方との意見交換会や交流会の開催
8. 農福連携に関する施策について政府その他関係機関に提言等を行うこと
9. その他本会の目的を達成するために必要な事項

役員一覧

- 会長理事：皆川 芳嗣
- 副会長理事：村木 厚子
- 代表理事：榊原 典俊（社会福祉法人 青葉仁会）
- 理事：中村 隆重（社会福祉法人 白鳩会）、宮嶋 望（農事組合法人 共働学舎新得農場）、新井 利昌（埼玉福興株式会社）、熊田 芳江（社会福祉法人 こころん）、小池 邦子（全国社会就労センター協議会）、國松 繁樹（一般社団法人 日本基金）
- 監事：雨宮 元美（労働保険事務組合 ティグレ東京）、名越 秀夫（インテックス法律特許事務所）
- 顧問：濱田 健司

2017年3月 前身である全国農福連携推進協議会発設立



2017年8月 ノウフクフォーラム開催(奈良・滋賀)

2018年3月 第29回全国車いす駅伝競走大会マルシェ出店

2018年4月 アースデイ東京2018・春出店

2018年5月 ①第1回パラ・パワーリフティング チャレンジカップ京都共催



②省庁間農福連携勉強会開催(25名参加)



2018年11月 一般社団法人 日本農福連携協会設立

2019年3月 農福連携フォーラム開催(愛知)



2017年6月 省庁間農福連携勉強会開催(13名参加)

2017年7月 ①農福連携スタディツアー開催(農水/厚労/法務省等より14名参加) ②ノウフクサロン開催(群馬)

2017年9月 ノウフクマルシェ開催(京都マルイ)



2018年6月 ①第60回全国矯正展出店 ②アースデイ東京2018・夏出店

2018年7月 ①農福連携スタディツアー開催(農水/厚労/法務/環境省等より27名参加) ②平成30年度再犯防止シンポジウムにて講演

2018年9月 ①農福連携講習会開催(埼玉) ②ノウフクマルシェ開催(埼玉) ③東京拘置所矯正展出店

2018年10月 ノウフクオンラインショップ開設



2019年4月 農福連携等推進会議出席(皆川会長/村木副会長/小池理事)



ノウフクは、日本の持続可能な共生社会と価値を生み出します。

〈ノウフクのビジョン〉



日本農福連携協会は、「農」と「福」をつなぎ、つながりをデザインし価値化します。

農福連携宣言

私たちは、農福連携によって地域の多様な主体の役割をつくり、主体を繋げ、地域の生活と経済をつくり、支えていきます。

昔、終戦頃まで、多くの地域には「百姓」という百の姓(血縁)を持つ人々が働き、生活していました。農作物を生産し、魚・猪・鹿などの狩猟を行い、燃料や家などの材となる木を伐り、自らの手で衣服・家・家具・雑貨・燃料などを生産してきました。

「百姓」によって農林水商工業が行われ、また生産・消費という行為が一体として行われていました。そして子供、障がい者、女性、高齢者等のさまざまな人々が役割を持ち、一人ではできないときには家族、それでもできないときには地域住民が繋がり、協力し合い、互いの生活と経済を支えてきました。

しかし、分業と効率化によって農林水商工業が分断、生産と消費が分断、さまざまな人々が分断、家族が分断、地域コミュニティが分断されてきました。

元来、私たち人間は、多様な人間、そして自然との繋がりの中でそれぞれが役割を果たすことで、生きてきたのです。

農福連携は、単に農業や福祉の課題を解決するのではなく、単なる6次産業化でも農商工連携でもありません。また単に「業」を繋げるのではなく、人々の想いと信頼の力を引き出すことができる「福」を通して、分断されてきたすべてのものを今日的に繋げ、地域の生活と経済をつくり、支えていくのです。

すべての「いのち」の役割をもう一度、再発見し、引き出し、社会や自然のために役立てていくのです。

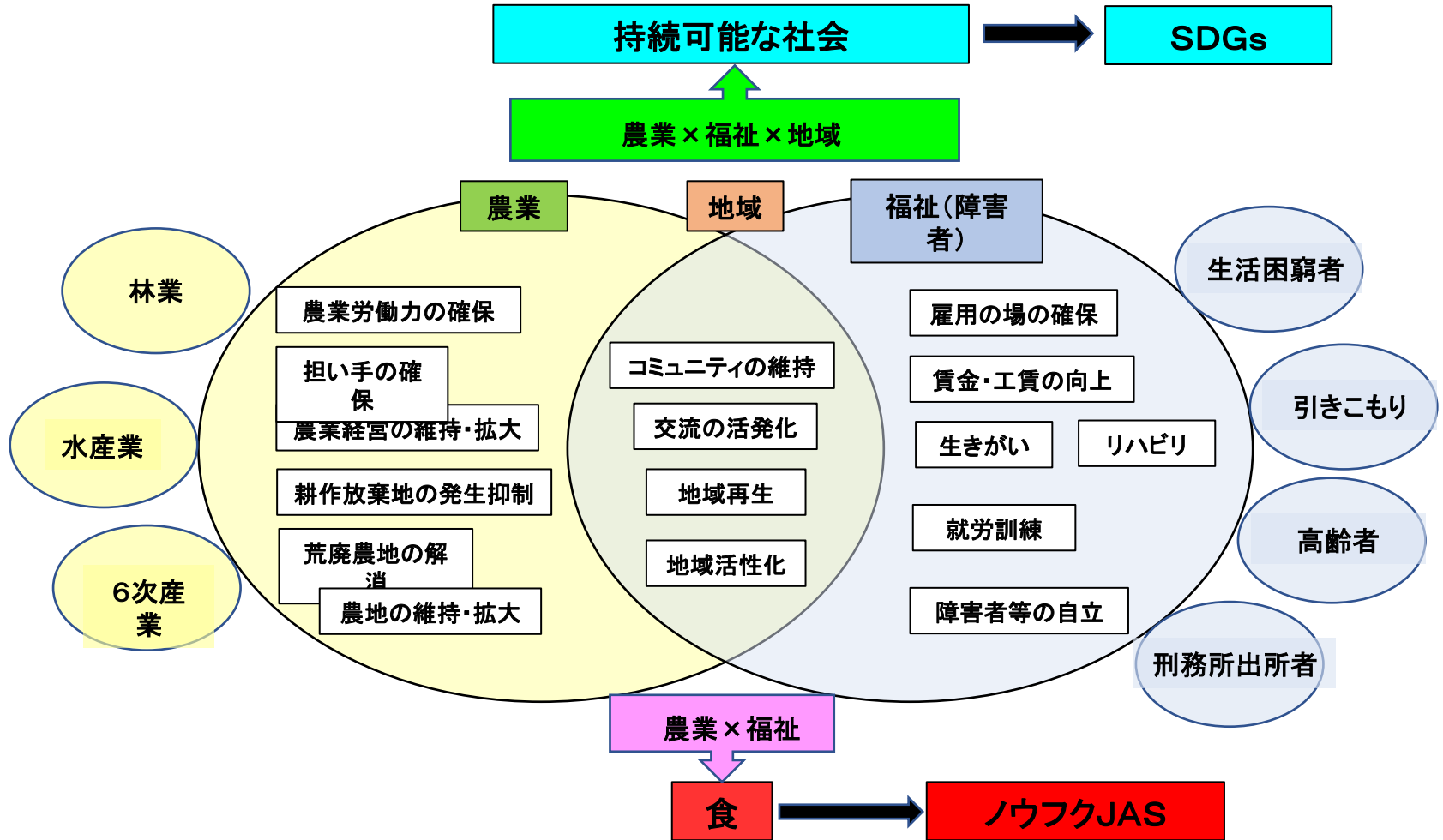
その第一歩が、障がい者が農業で働くという農福連携です。障がい者が働くという役割を果たし、農業は働く場を提供するという役割を果たします。その結果、障がい者は新たな働く機会を見出し、より高い賃金を実現します。農業生産者は新たな担い手・労働力を確保でき、さらには福祉サービスを提供することによる新たな収入の機会を得ることも可能となります。

そして農(林水含む)は、単に生産物(モノ)を供給するだけでなく、リハビリテーション、レクリエーション、教育などのさまざまなサービスを提供します(「農生業(のうせいぎょう)」)。また福には、障がい者だけでなく、高齢者、生活困窮者などの多様な人々が加わります。

農福連携の先には、農福商工連携や農福医(療)連携や農福教(育)連携などさまざまな連携があります。地域によって、連携の内容そして参画する主体は異なります。実はそれが多様な地域をつくり、支えることとなります。

私たちが目指すのは、多様な主体が役割を果たすことで、多様な地域をつくり、一人一人の個性ある笑顔が世の中で溢れることです。

農福連携(ノウフク)の目指す方向



一般社団法人日本農福連携協会の取り組み～ノウフクプロジェクト～

○ 日本農福連携協会では、農福連携に関わる団体をつなぐ

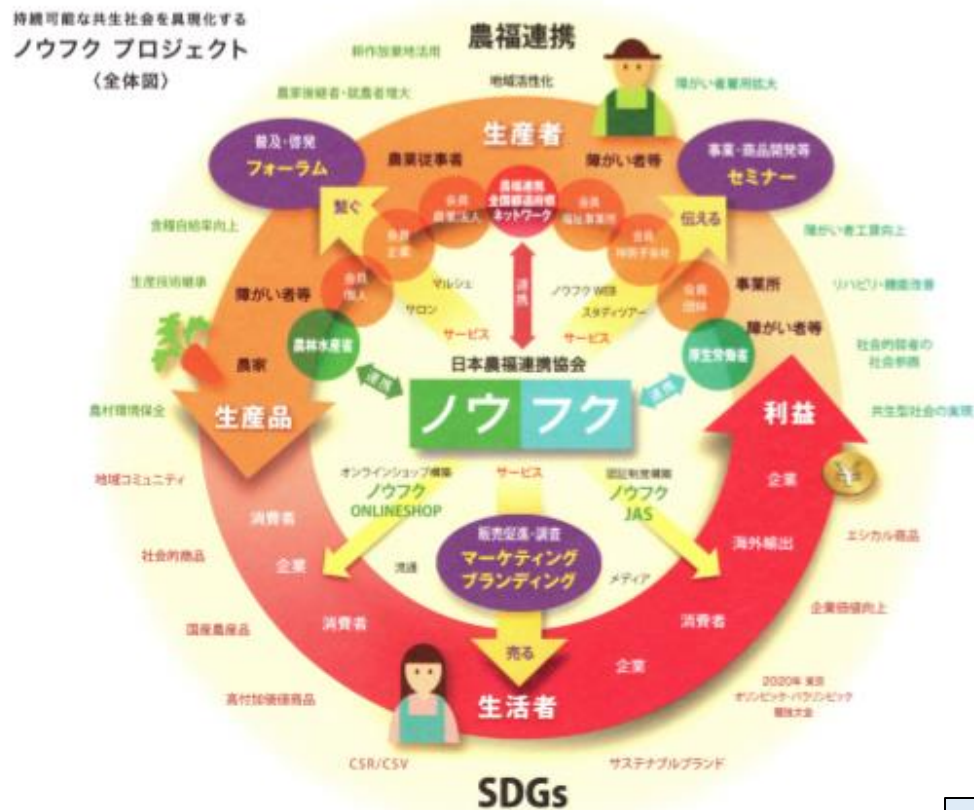
プラットフォームとして、「繋ぐ(フォーラム)」、「伝える(セミナー)」、「売る(マーケティング・ブランディング)」といった役割を果たすことで、それぞれの取組が効果的に連動し、農福連携に共感する様々な立場の方がこれに参画できる全国的

な取組に発展することで、持続可能な社会の実現を目指します。

○ このため、協会では、①フォーラムやマルシェ開催などを通じた情報発信や啓発活動、②セミナー等による農福連携推進のための人材育成、③農福連携全体のサステナブルブランド化・販路開拓・販売促進活動などを通じて、

農福連携が持続可能で多様な人々に関わる共生社会の実現につながる活動として、「ノウフクプロジェクト」を展開中

○ 8月19日現在の会員数は、正会員41、準会員8、賛助会員(個人及び団体)32、特別会員3、サポーター会員4



ノウフクJASについて

ノウフク



10年前…

みんなが作った 「農福連携」製品を売りたい!

と思ったが…

- 課題：①「農福連携」を誰も知らない
②「農福連携」の定義がない

要はブランド力がない…



では、ブランディングしてみよう…

ブランディングとは 価値づくり × ファンづくり



農福連携には、数値化されない
見えない価値がたくさんある。



農福連携の価値が伝われば
多分野の連携ができる。

見える化

してみよう…

○ JAS制度の枠組み(新たなJAS 制度)

- 現行のJAS規格の対象は、モノ（農林水産品・食品）の品質のみ。
- 今回の改正により、強みのアピールにつながる多様な規格を戦略的に制定・活用し得るよう、モノの生産方法、試験方法、事業者による取扱方法など、「モノ」から「方法」、それを満たす「事業者」まで広く対象に。

現
行

モノの品質の規格

- 一定の原材料、成分等を満たす製品の基準

- ✓ こいくちしょうゆのJAS規格例
 - ◆原材料：大豆、麦、食塩等のみ
 - ◆全窒素分：1.50%以上(特級)
1.35%以上(上級)
1.20%以上(標準)

生鮮品など品質が変化するもの、ノウハウなどのオープンにできない秘伝や営業秘密が絡むものにも規格を活用したアピールの途。

拡
大
分

モノの生産方法の規格

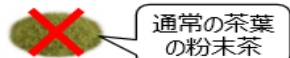
- 一般的な方法により生産される製品の基準

- ✓ 例えば、伝統的な抹茶をアピールするため、我が国では一般的な製法を規格化



伝統製法の抹茶

「本物」を類似品と差別化

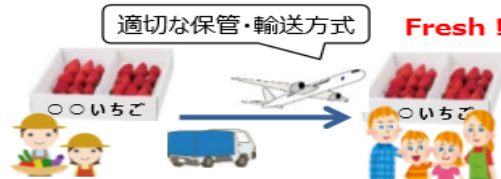


通常の茶葉の粉末茶

事業者による取扱方法の規格

- 一定の方法により生産、保管・輸送、販売等を行う事業者の基準

- ✓ 例えば、鮮度をアピールするため、定温保管・輸送方式を規格化。能力を有する事業者を認証



認証事業者が扱うので「新鮮」とアピール可能に

モノに関する試験方法の規格

- 特定の成分などの測定、分析方法を公定化するもの

- ✓ 例えば、魚に臭みが出ない養殖技術をアピールするため、臭み成分の統一的な測定・分析方法を規格化

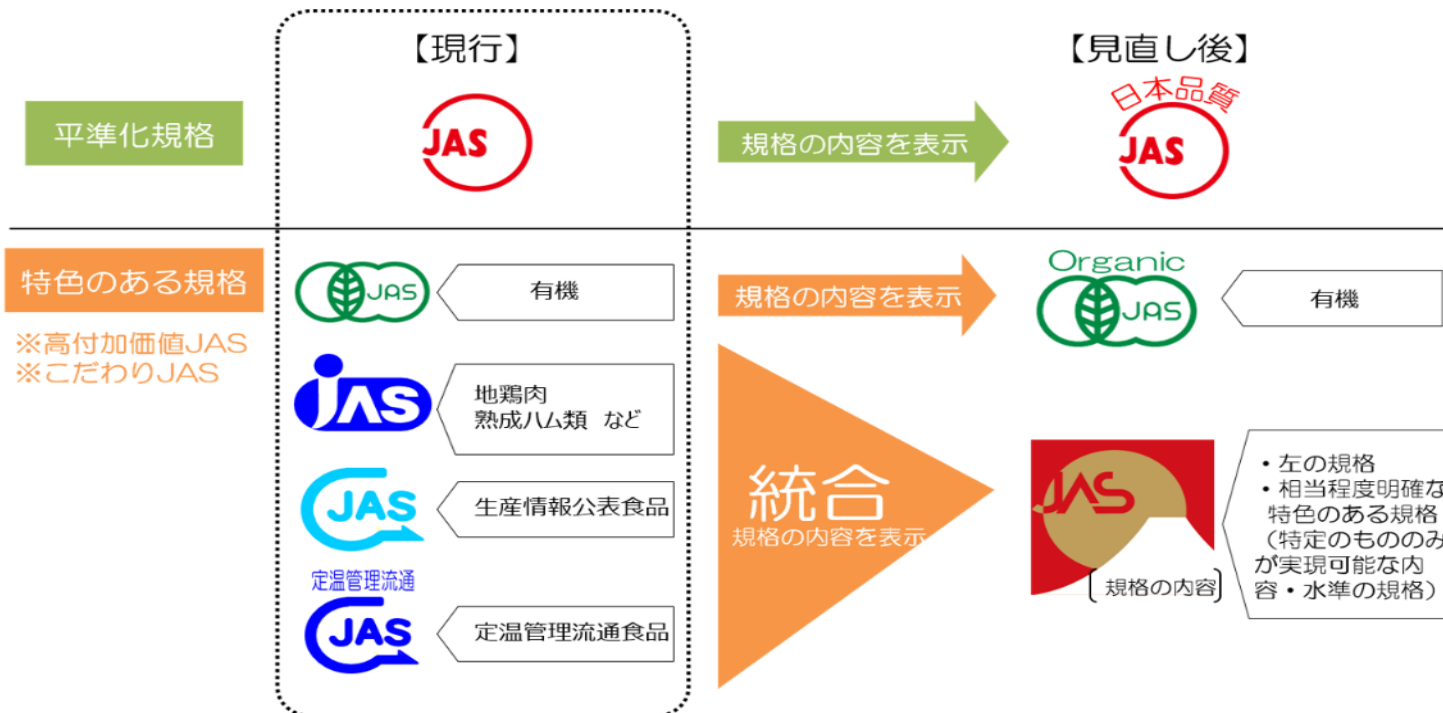


客観的に比較可能！「天然物と遜色なし」

養殖技術の高さを根拠を示してアピール

○ JASマークの表示

- 特色のある規格のJASマークは、有機食品、地鶏肉など4種類。今後、特色のあるJASマークの制定・活用の増大が見込まれる中、マークの訴求力の分散を付ぎつつ、マークの認知を高めることが不可欠。
- このため、特色のあるJAS認証の内外における訴求力を高めるため、新たなイメージのマークを制定し、有機JASマークを除く3種類のマークを統合するとともに、その規格の内容を端的に示す標語をマークに付与。



JASのメリット

規格がないと

規格があると

障害者が生産した農産物です。



障害者が生産した農産物って、品質とかはどうなの？

消費者



バイヤー

可哀そうだし、社会貢献にもつながるから買ってあげようかな。品質も良さそうだし

一般の農産物と同じようにJAに集荷するか、直売所等で販売しよう



消費者



バイヤー

トマトは1袋200円で売ろう

.....

JASで定められた生産方法の基準を満たしており、認証を受けています。



ノウフクトマト！ノウフクとは障害者が農林水産物の生産行程に携わる取組なんだ。国が認証している物だし、品質も良さそうなので買おうかな。



農福連携は、持続可能な社会の実現にもつながる取組だし、国が認証した農産物で、品質も確かだから、他の農産物よりも少し高くして売ってみようかな。



自らの取組を規格として定めて活用すれば、その取組が確かなものであることの説明や証明が容易になり、更に「強み」を規格にすれば、アピール力や訴求力が向上

○ ノウフクJASについて

【正式名称】

障害者が生産行程に携わった食品の農林規格(平成31年3月29日農林水産省告示594号)

【適用範囲】

障害者が農林水産業における生産行程に携わった生鮮食品及びこれらを原材料とした加工食品について規程

【認証を行う農林物資の区分】

ノウフク生鮮食品、ノウフク加工食品

【要求事項】

○ノウフク生鮮食品

◆当該農林水産物の生産に直接関連する主要な生産行程(栽培、飼養、養殖、収穫(収穫)等)に障害者が携わっていること。

◆外部からの問い合わせに応じて、当該ノウフク生鮮食品の主要な生産工程のうち、障害者が携わった主要な生産行程を回答できるものであること。

○ノウフク加工食品

原材料としてノウフク生鮮食品を1種類以上使用すること

障害者が生産行程に携わった食品のJASの概要（表示）

食料産業局

ノウフク生鮮食品

- 次の事項を、ノウフク生鮮食品、包装・容器若しくは送り状又は製品に近接した掲示その他の見やすい場所に表示すること。

- (1) “ノウフク”という用語
- (2) ノウフクの説明



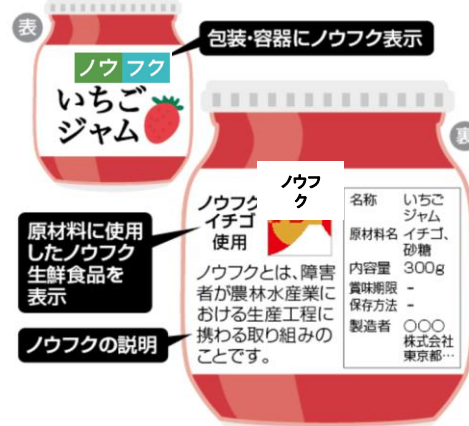
※作業記録を特定するために識別番号



ノウフク加工食品

- 次の事項を、包装・容器に表示すること。

- (1) “ノウフク”という用語
- (2) ノウフクの説明
- (3) ノウフク生鮮食品を原材料に使用している旨
- (4) 原材料にノウフク生鮮食品と同一種類のものを使用した場合は、ノウフク生鮮食品の重量割合を表示すること。



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称で、2015年9月に国連サミットで採択された、2030年までに達成すべき国際社会の共通目標。

「誰も置き去りにしない」というスローガンのもと、17の大きな目標と、169の具体的なターゲットが掲げられている。SDGsでは、経済・社会・環境の3つの側面のバランスがとれた社会を目指す。

農福連携とSDGs（持続可能な開発目標）



「拡大版SDGsアクションプラン2019」より引用

「SDGs実施指針」優先課題3【主な取組】:成長市場の創出, 地域活性化, 科学技術イノベーション

農福連携

福祉農園, 加工・販売施設等の整備による障害者や生活困窮者等の受入, 農業経営体の障害者受入をサポートする人材育成等の取組等を支援。

- 2018年12月（拡大版は令和元年6月）にSDGs推進本部会合で決定された「拡大版 SDGsアクションプラン2019」にも農福連携が位置付けられている。



「SDGs実施指針」優先課題③【主な取組】: 成長市場の創出, 地域活性化, 科学技術イノベーション(続き)

地方創生SDGsの推進

地方創生SDGsの実現に向けては、地方公共団体の取組が重要となるため、普及促進活動の展開や、SDGs未来都市の選定、モデル事業形成への資金的支援を継続。

更に、地方公共団体のみならず、民間企業、金融機関等の多様なステークホルダーによるプラットフォームの取組を一層活性化させるとともに、金融面においても地方創生SDGsを推進する。また、資金の流れを地域事業者や地域経済に還流させ、地域創生につながる「地方創生SDGs金融」の先進的取組事例の調査・検討や、その普及展開を図る。(31当初5.4億円)



国際フォーラムの開催

2019年2月、日本の「SDGsモデル」の発信・展開を目的に、「第1回地方創生SDGs国際フォーラム」を開催。



SDGsリーダーシップ都市連合への参加

2019年1月に米シンクタンク・ブルッキングス研究所が立ち上げた「SDGsリーダーシップ都市連合」に、SDGsを積極的に推進している地方自治体として、横浜市がニューヨーク、ロサンゼルス等とともに参加。4月の第1回総会(於:イタリア)では「都市主導によるSDGsの推進」をテーマに14都市が議論を行った。

地域金融機関が、地域企業の経営課題の解決に向けたアドバイスとファイナンスを提供し、地域企業の生産性を向上させ、結果として金融機関自身も継続的な経営基盤を確保するといった、「共通価値の創造」を促進。

地域金融機関による顧客との「共通価値の創造」の促進

持続可能な観光の推進

観光

北海道でG20観光大臣会合を開催。観光を通じたSDGsの実現、持続可能な観光のあり方、観光分野の技術革新等につき、我が国の観光政策を発信するとともに議長国として議論をリード。公開シンポジウムや官民セッションの導入などを含め、観光を通じたSDGsの実現に関する知見を普及・啓発。

ユニバーサルツーリズム及び宿泊施設・観光スポットのバリアフリー化の促進

- 増加している高齢者・障害者の訪日外国人旅行者のニーズに応じるため、観光案内所において、宿泊施設のバリアフリー情報発信のための機能強化を図るべく、実証事業を行う。(31当初0.2億円)
- 全ての訪日外国人旅行者がストレスフリーで快適に旅行できる環境を整備するため、宿泊施設が実施する客室や共用部のバリアフリー化改修等の取組を支援するとともに、訪日外国人旅行者の来訪が特に多い観光地等において、当該観光地等を代表する観光スポットにおけるバリアフリー化を推進する。

農山漁村を含む地域の活性化

農山漁村の振興のための総合的支援

地域の創意工夫による活動の計画づくりから農業者等を含む地域住民の就業の場の確保、農山漁村における所得の向上や雇用の増大に結びつける取組を総合的に支援し、農山漁村の活性化を推進。(31当初98億円)



集落ネットワーク圏の推進

基幹集落を中心に周辺の複数集落をひとつのまとまりとする「集落ネットワーク圏」(小さな拠点)において、「暮らしを支える多様な主体の包摂・連携による生活支援の取組や「なりわい」を創出する活動を支援。(31当初4.0億円)

広域連携の推進

本格化する人口減少下においても活力ある社会経済を維持するための拠点である連携中枢都市圏の形成や、圏域内の都市機能等を戦略的に確保する取組等を支援。(31当初2.0億円)

中山間地農業ルネッサンス事業

多様で豊かな農業と美しく活力ある農山村の実現や、地域コミュニティによる農地等の地域資源の維持・継承に向けた取組を総合的に支援。(31当初440億円)

山村活性化支援

山村活性化支援交付金により山村の持つ豊かな地域資源の活用等を通じた、所得・雇用の増大を図る取組を支援。

過疎対策の推進

過疎地域の自立・活性化に資するソフト事業や、基幹集落における定住促進団地の造成、空き家を活用した定住促進住宅の整備、廃校舎などの遊休施設を活用した地域振興施設の整備等を支援。(31当初2.9億円)

地域経済循環の創造事業

(ローカル10,000プロジェクト、分散型エネルギーインフラプロジェクト)
産学官の連携により、地域の資源と資金を活用して、雇用吸収力の大きい地域密着型企業の立ち上げを支援。(31当初10億円)

文化芸術創造拠点形成事業

2020東京大会とその後を見据え、地方公共団体主体の文化芸術事業を支援することにより、地方公共団体の文化事業の企画・実施能力を全国規模で向上させるとともに、多様で特色ある文化芸術の振興を図り、地域の活性化に寄与する。(31当初11億円)



世界農業遺産・日本農業遺産の推進

社会や環境に適応しながら何世代にもわたり継承されてきた、伝統的な農林水産業を営む地域(農林水産業システム)を認定する世界農業遺産・日本農業遺産の制度について、認知度を向上するための取組を推進。

食の魅力発掘による消費拡大のための国民運動を推進

国、生産者、食品事業者、消費者が一体となって国産農林水産物の消費拡大に取り組む「フード・アクション・ニッポン」を推進し、国産農林水産物を活用した地域の魅力あふれる産品を表彰。(31当初1.7億円)

和食文化の保護・継承

ユネスコ無形文化遺産に登録された和食文化を保護し、次世代に継承していくための施策を実施。(31当初0.7億円)

地域特産作物体制強化促進

茶、薬用作物等の地域特産作物について、産地の規模拡大や担い手の育成などを強力に推進し、生産体制の強化や産地の活性化を実現するため、低コスト化に向けた機械のリース導入や栽培技術の確立等を支援。(31当初14億円)

農福連携

福祉農園、加工・販売施設等の整備による障害者や生活困窮者等の受入、農業経営体の障害者受入をサポートする人材育成等の取組等を支援。

漁業の構造改革のための総合対策

資源管理に取り組む漁業者による新しい操業・生産体制への転換等を促進するため、高性能漁船の導入等による収益性向上の実証の取組を支援。(31当初51億円、30補正50億円)

農福連携は、世界の関心ごと「SDGs（持続可能な開発目標）」の達成に貢献できる、革新的な取り組み



農福連携の取り組みにより、貢献できると想定するSDGsの目標

- 1：貧困をなくそう
- 2：飢餓をゼロに
- 3：すべての人に健康と福祉を
- 8：働きがいも 経済成長も
- 10：人や国の不平等をなくそう
- 11. 住み続けられるまちづくりを
- 12：つくる責任 つかう責任
- 15：陸の豊かさも守ろう
- 16：平和と公正をすべての人に
- 17：パートナーシップで目標を達成しよう

農福連携は、SDGs推進の一翼を担う！

1 貧困を
なくそう



日本では障がい者が貧困当事者。
ノウフクで工賃・賃金・QOLの向上を目指します！



ノウフクで持続可能な農業を。

3 すべての人に
健康と福祉を



ノウフク連携で作られた生産物、そこで働く人の健康、食べる人の健康を通じて、福祉という幸せに繋がる。

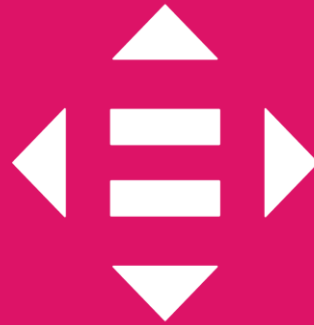
8 働きがいも
経済成長も



ディーセントワーク

→障がいのある方だけでなく、全ての人がやりがいのある仕事を通じて生産に関わると、持続可能な経済成長に繋がる。

10 人や国の不平等
をなくそう



障がい者を含めた社会的弱者に対する格差や貧困をなくすために、ノウフクを。

11 住み続けられる
まちづくりを



ノウハウを通じて生み出される持続可能な社会と地域コミュニティ。



ノウフクを通じた持続可能な消費と生産のパターンを確保。

→GAPの取組みやノウフクJASなど。



耕作放棄地の解消。里山の保全。



ノウフク連携は、平和で包括的な社会の実現を目指す取り組み。

17

パートナーシップで
目標を達成しよう



ノウハウ連携を通じて、様々な人たちを巻き込んで、
様々な枠組みを越えて、様々な主体で、皆で、連携し
ていきましょう。



ご清聴いただき
ありがとう
ございました